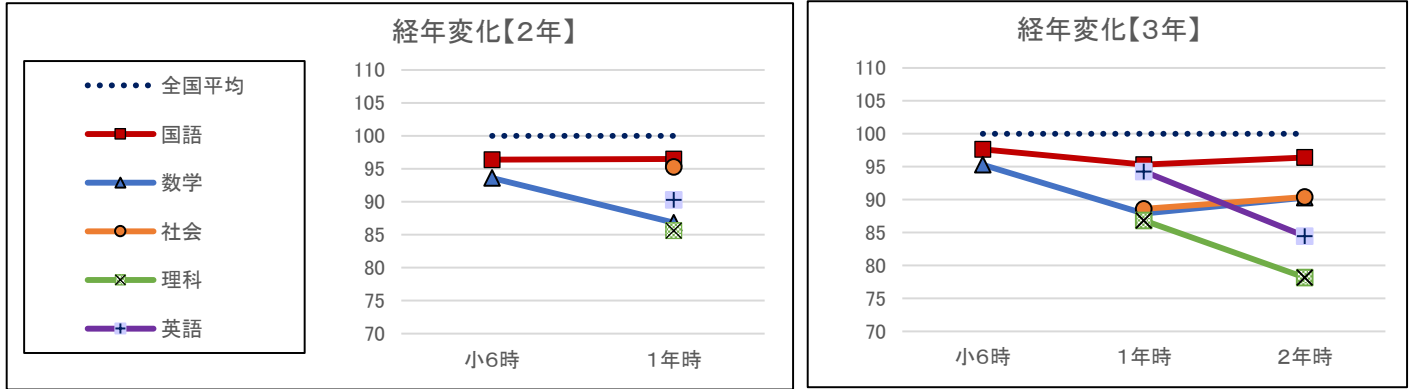


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

※釧路市では、1～2年生を対象に国語と数学で標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に社会・理科・英語においても実施しています。

① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）



② 学校の状況

本校の課題は、1学年・2学年ともに年度当初に設定した各学年の「目標家庭学習時間（1学年80分、2学年90分）」に到達していない生徒が多いことです。目標家庭学習時間に到達した生徒は、令和7年2月の調査で1学年11%、2学年27%でした。来年度は、全学年で50%以上とすることを目標とします。また、標準学力調査の結果から、1・2学年5教科で、評定2の生徒の割合が多い傾向が共通しています。これらの学力低位層の生徒の学習を支援するための効果的な方法に取り組むことが喫緊の課題です。

II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・アウトプットで学力向上 アウトプットで学力向上を目指します。授業では教師の説明を短く、生徒が自分の意見を多く出す（アウトプット）機会を増やします。課題を「考え」、お互いに「話し合い」「発表」し、「修正」し「交流する」場面を多く設定します。 ・主体的に学習する生徒へ 自分の進路を考え、その実現を目指して「主体的」に学習する生徒を育成します。どの授業でも自ら考え発表して授業を振り返り、次の授業に向けた学習課題に家庭学習で取り組み、家庭学習と授業が往還する体制を構築し、個別最適な学びを支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青陵スタンダードの定着 授業のきまりである「青陵授業スタンダード」に基づき、学習規律を遵守することで、学びに向かう力を育む学習集団を育てていきます。青陵学習スタンダードは各教室に掲示しており、「授業前」「授業中」「授業後」の3つの場面の約束が記載されています。授業前、2分前に着席し学習道具の準備すること。授業中、発言はみんなに聞こえる声で、きちんと自分の考えを伝え、相手の意見を聞き学びを深めること。授業後、できなかったことわからなかったことを整理し、先生や友達に聞いて解決し、家庭学習で復習することなど10個の約束があります。生徒にとって良い学習環境を整えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あい」があふれる環境から学力向上へ 本校は毎朝、日直の生徒が日誌を取りに職員室の担任の先生のところにやって来ます。担任の先生は生徒の登校に合わせて教室に行き、生徒にあいさつをします。生徒会では定期的に玄関前であいさつをする「あい活」を行っています。生徒同士、生徒と教師が触れあう機会が多い学校です。触れ「あい」、支え「あい」、学び「あい」を授業にもつなげていきます。 ・家庭学習の定着 5教科を中心として、授業の終末に本時のまとめと次の時間の学習につながる学習課題を提示します。また、家庭学習のやり方を4月に先生から提示します。1年生は80分、2年生は90分、3年生は100分を目標にしましょう。

② 各教科での指導の重点

国語科の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・国語の総合的な力を養うために、描写に基づく根拠を明確にした個人思考を行い、それを他者へ伝え、最終的に個人思考を再構築する場面を多く設定していきます。 ・特に「書くこと」領域の力を養うために、個人思考の再構築場面や授業の終末部に、様々な条件（筆記やChromebookへの入力、キーワード用語を用いた作文など）に合わせた記述の時間を設定します。 ・文法や漢字・語句、我が国の言語文化に関する事項における能力を養うために、定期的な単元テストを行います。主体的に学習に取り組めるよう、問題や日程を事前に提示する方法をとり、家庭学習の促進を図ります。

数学科の重点

- ・「知識・技能」の定着を図るため、計算等の基本的な問題を反復させる時間を計画的に取り入れます。
- ・基礎的な計算が苦手な生徒に対して、補足的な学習の機会を設定することで、苦手な部分の克服を目指します。
- ・単元テストにおいて、学習への意欲を高めるような出題問題の工夫をします。

社会科の重点

- ・授業の冒頭に、前時の振り返りを行う時間を確保します。
- ・単元を貫く問いを設定し、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることで、自分の考えや理解を深めます。
- ・資料の読み取りを通して問いに対する考察を行い、資料読み取りの技能と思考力を同時に高めていきます。
- ・単元の終わりに小テストを実施するなど、繰り返し学習する機会を設定し、基礎・基本の定着を図ります。

理科の重点

- ・授業開始5分程度の復習の時間を継続的に取り組み、基礎的な学習内容の定着をはかります。また、その際にICT機器を有効活用します。
- ・基本的な問題を解く力を身につけるために、授業内で問題に取り組む時間を確保します。
- ・学習内容と日常生活の関わりに気付かせたり、章や単元のまとめの時間を充実させるために教材研究を継続していきます。
- ・教師から問いを繰り返し、事象が何を示すか、そこから何が言えるのかを自分自身の言葉で説明させる活動に重点的に取り組みます。
- ・各種テストに最近の問題の傾向を捉えた問題を取り入れます。

英語科の重点

- ・単語テスト、単元テストの充実を図ります。範囲を示し、頑張りが成果に表われ、やる気につながる取り組みにします。
- ・英会話タイムの定着を図り、授業内で簡単な会話練習を増やします。
- ・文法を理解・定着できるような授業の工夫をします。文法を使ったスピーキング活動、ライティング活動を工夫します。

音楽科の重点

- ・楽譜を読む知識である楽典の学習を定期的に取り入れます。学習のまとめとして実践問題を作成し、学習したことが身についているか確認できる工夫をします。
- ・器楽や歌唱、創作の分野において、目標を達成するまでの過程を、CBの録画機能を活用して記録し、評価にいかしていきます。
- ・器楽や歌唱の演奏では、生徒たちがこれまでの学習で得た技術を、思考・判断しながら駆使し、楽曲をよどみなく表現できる力を身に付けます。
- ・3年生は最後の合唱祭を大きな目標に、最高学年として後輩があこがれるような合唱を表現できるように、歌唱における発声や表現力の向上を目指します。

体育科の重点

- ・CBを活用し、自分の動きを動画に収めることで、課題解決を促す力を育みます。また、動画を見ながらペアやグループでの話し合い活動を深める一助とします。
- ・体育教科係や体育祭実行委員会を中心に「体力向上プロジェクト」を推進し、新体力テストやその結果を利用しながら体力（特に全身持久力と瞬発力）向上に努める授業を目指します。

美術科の重点

- ・作品をその単元の時間内に必ず完成させることに重点をおき、○時間扱いの○時間目（あと何時間で完成提出か）というように授業の最初に意識させます。そのための工程を、生徒に持たせている「美術科評価シート」により毎時間確認します。
- ・題材への興味関心を高められるよう、実際の完成作品の提示を工夫します。
- ・「表現意図」に意識を向けさせ、今まで習得した技能や知識をもとに、どのような材料で、どのような工夫をして作品を作るのか考える場面を設けます。
- ・作品を完成させるための集中、意欲を引き出せるような授業展開を目指します。

技術・家庭科の重点

- ・技術分野では、Society5.0を支える技術として、IoT (Internet of Things) や、ビッグデータ、AI (Artificial Intelligence) の理解や技術の習得に向けて、主にコンピュータを用いた授業を促進していきます。様々なアプリや常駐されているアプリを用いて実践的・体験的な授業を通して、学習を深めていきます。
- ・家庭分野では、食生活に重点を置き、健康的な食習慣や栄養バランス、献立づくりまで考えられるように、実践的・体験的な学習を通して、家庭分野のねらいに迫っていきます。調理実習で実際に食材を加工したり、献立を考えたり班員と協力したりする活動を増やし、よりよい食生活を送れる生徒の育成に努めます。